荒尾市立府本小学校　校長便り　No.７０

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和８年１月２６日(月)

卒業前雑感　～権利と義務～

ある道徳の教科書の文章です。

ある川の川上に住む漁師と川下の住民のお話。

川上の漁師は網を川に渡して川面を石で打ちながら、その網に魚を追い込む漁をしていました。この漁は水を濁らせてしまい、川下の住民は「水が飲めない。」と言います。しかし、漁師は「魚が獲れなければ、生きていけない。」と言います。どうすればよいのか？　どちらの主張もおかしくはないのですが、二人の考え方には相手の存在が無視されており、自己中心的であるともとれます。そこで話し合いです。

話し合いをする場合大切なのは「相手の立場を尊重すること」。自己中心的な考えでは、解決の糸口は見えません。相手の立場を尊重し、互いの利益が最大限に保障できるところで最善策を考えることが大切です。そして、決まったことをしっかり守ることが大切です。これがいわゆる「義務」です。義務を果たすことによって、「権利」が主張できるということなのです。

権利と義務の話は、普段の生活に適用できます。決まり事やルールが「義務」にあたるのです。これまでの出来事や人々の体験から、「守らなければならないこと」として決めてきたものであり、話し合いで決めた、互いの利益を最大限に保障できる最善策なのです。これらが守られないと、自分だけでなく、集団に迷惑をかけることになります。誰かが嫌な思いをすることになる訳ですね。

小学校、特に低学年の間はルールを無視して自分勝手で傍若無人な言動が目立つ子がいるのですが、その様な子達は周囲の精神的な成長に伴い、孤立してしまう可能性があります。だからこそ互いの立場や権利を尊重した行動を心掛けたいものです。

私の中学時代　その④　～趣味の広がり～

心身の成長や行動・交友範囲の広がりに伴い、多くのことに興味をもち始め、必然的に趣味が広がっていきました。当時、興味のあったものをざっと紹介します。音楽鑑賞、映画鑑賞、写真、模型、天文学、テニス…。挙げればきりがないのですが、どれも深くのめり込むことはありませんでした。というのも、お金や時間、場所、仲間が必要だったりするものが殆どで、中学生の私には全く手が出ないものもありました。音楽鑑賞は先にお話ししたとおりで、友達に頼ることが多かったですし、映画も一年に一本観られればいい方でした。また、天体望遠鏡なんて高くて買ってもらえず、もともと「写真に興味があって天体写真も撮りたい」イコール天体望遠鏡だったので、専門的に勉強しようと思ったわけでもありません。でも、興味をもつといろいろと調べたくなるもので、その頃たくさんの星座や星雲、星団を覚えました。また、写真については家にあったカメラで写真を撮らせてもらい、友達の家にモノクロフィルムの現像設備があったので、そこで現像、焼き付けの仕方を教えてもらっていました。模型は小学校の頃から大好きで、特にプラモデルは数多く作りました。当時から、色を塗っていたのですが、あの頃は絵の具にシンナーを混ぜて塗っていました。塗料が高かったからです。母がしていた内職の道具にシンナーがあったので、それを拝借したのです。後でこっぴどく叱られることになるのですが…。テニスも友達がやっていたから始めたのですが、これもテニスコートが遠くにあったため、また、「ラケット買って！」とおねだりしても、毎回却下されていましたので…。今でもやっているものが多く、特にカメラは手軽にデジカメが使えるようになってからは、色々な場所で撮っています。

このように、子ども達は成長するにつれて趣味も広がり、それに伴いお金も要求するようになります。何でも買い与えるのはよくありません。要不要の判断をしっかりする必要があります。かく言う私、「大人買い」する傾向があり、あの頃買えなかったものを、こっそり買ってしまいます。怒られそうです。

シリーズ「自分を語る」#７０

伊倉小学校での、子ども達との出会いの日、私は我慢できずに全校児童の前で雷を落としました。

挨拶の冒頭、とりあえず挨拶を済ませた後、こう言いました。

「おい！　先ずは話ばやめんか…。」

聞きなれない、また、先生が発する言葉とは思っていなかったのか、はたまた、只ならぬ雰囲気に危機感を感じたのか、子ども達は一瞬にして静かになりました。

「君らは大切な儀式にもかかわらず、私達新任者に対して著しく失礼な態度をとっている。どういうことだ？　もしかして君たちはこれまでもこのような雰囲気の中で儀式的行事に参加してきたのか？　もしそうなら、気持ちと行動をすぐに切り替えなさい。将来必ず君たち自身が困ることになる！」

子ども達はキョトンとした表情でしたね。その後、担任発表となっていく訳ですが、子ども達の表情から「あの先生（私）だけは担任にはなってほしくない。」と思っていたのではないでしょうか。

「３年生担任は、澤田先生です。」

一瞬のどよめきと、３年生の子ども達のひきつった顔がとても印象的でした。

さて、学級開きです。私が３年生教室に入ると、ざわざわしていたのが急に静かになりました。先ずは自己紹介。

「そんなに緊張すんな。俺はただ厳しいばかりじゃない。ルールを守り、良いことは良い、悪いことは悪いの判断がきちんとできて、それを実践できるのであれば、そんなに大声で怒鳴ることはないよ。そして、君たちと過ごす時間が掛け替えのない時間にしていきたいと、真剣に思っている。」

そんな、子ども達との出会いの日でした。当時の学級の引継ぎ事項として、「元気な子ども達なので、その元気さを伸ばした学級経営を」だったような気がしています。私は当時、そんなに学級経営の引き出しが多いとは思っていませんでした。取り敢えず、これまでやってきたことをやってみるか？くらいの簡単な考えでスタートしました。それまでの経験から、自治が機能していない学級では必ず問題が起こる、また、暇を与えると思考がネガティブになり問題が起こるということを感じていました。そうならないように、担任として先ずは多くの仕事を与えました。そして出来たら褒めるを繰り返して行いました。それを繰り返していると、子ども達は「先生、ほかに仕事はありませんか？」「手伝いましょうか？」等と声をかけてくれるようになってきました。　（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　可　・　不可　）